

アペックスグループ

Sustainability Report 2016

サステナビリティレポート2016



会社概要

社名	株式会社アベックス	(2016年3月31日現在)
本社	〒474-0053 愛知県大府市柁山町2丁目418番地	
設立	昭和38年(1963年)2月	
資本金	8,400万円	
売上高	600億円(平成27年度実績)	
社員数	1,550名	
営業拠点	全国主要都市96ヶ所*(平成27年12月末)	*株式会社アベックス西日本を含みます。
事業内容		

自動販売機オペレーター業

全国に拠点をもち、独立系専門オペレーターとして、カップ式自動販売機を約49,000台、缶・PETボトル・紙パック飲料自動販売機を約24,000台、その他自動販売機を約3,000台展開しています。従業員様用としてオフィスや工場で、施設のご利用者様用として駅・高速道路SA・PA等で、生徒様や学生様用として学校で、さまざまな方々の憩いにお役立ていただいています。



フード事業

イタリアンレストラン 「スペチャリータ・ディ・カルネ・キッチャーノ」

ビステッカ(イタリア式炭火焼ステーキ)をはじめイタリアン・スタイルの肉料理に特化した、“メニューのない店”。他にはない個性的なダイニングです。素材は、こだわりの産地から厳選した“個性的な肉”を取り揃え、ドライエイジングで的確に熟成させたものを使用しています。



フレンチレストラン 「アピシウス」

1983年4月に有楽町・蚕糸会館にて創業して以来、オールヌーボー調のしつらえを維持する店内は、バーコーナー、ダイニング、個室をご用意しております。

“真実の正統派フランス料理”をご提供するため、そして、お客様に無二の感動を贈るために、その味を磨き続けています。美術館のように名画に囲まれた空間の中で、旬の食材で調理した料理の数々を堪能しながら、ゆっくりとした上質なひとときをお過ごしください。



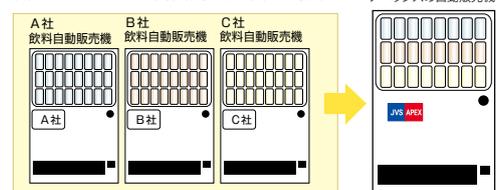
MEMO

アベックスは専門オペレーターです。

“自動販売機オペレーター”とは、自動販売機を保有してさまざまな場所に設置することによって、お飲み物やサービスを販売・提供する業態のこと。オペレーターには、これらの業務を専門的に行う「専門オペレーター」と、飲料メーカーなどがオペレートも兼ねて行う「兼業オペレーター」があり、アベックスは「専門オペレーター」にあたります。

アベックスは専門オペレーターのため、品揃えが特定メーカーに偏ることがありません。このため、売れ筋商品を1台に取り揃えたり、カップ機を併設することもできますので、複数の自動販売機の台数を集約することが可能で、消費電力量とともに総合的なCO₂排出量の削減を目指します。

缶・PETボトル飲料自動販売機の場合



編集方針

アペックスでは、持続可能な低炭素社会の実現に向けて、経営理念に掲げる「環境保全活動に最善を尽くし、地球環境との調和を図る」ためのグループの活動と今後の方向性を、幅広くステークホルダーの皆様にお伝えするために、環境保全活動と地域社会との関わりについて情報を積極的に開示しております。

2016年度の「サステナビリティレポート」においては、環境保全活動部門を「気候変動問題への取り組み」「生物多様性保全への取り組み」「廃棄物の削減・資源の再利用」という3本の柱で、そして、社会との関わりを地域コミュニケーション活動としてわかりやすく説明しています。本報告書を通して、一人でも多くのステークホルダーの皆様にご一読いただき、ご意見を頂戴し、今後の改革につながるきっかけにしたいと考えております。ぜひ、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せくださいますようお願いいたします。

● 報告対象範囲

株式会社アペックス

※グループ会社である株式会社アペックス西日本、日本バンダー整備株式会社、株式会社名古屋フーズの取り組みも一部含みます。

※ただし、「アピシウス」(フレンチレストラン)、「キッチャーノ」(イタリアンレストラン)における取り組みは含みません。

● 報告対象期間

実績

2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)

※一部、直近のデータを含みます。

● 発行日

2016年7月

● 次回発行日

2017年7月発行予定

● 本報告書に関するご連絡先

株式会社アペックス 環境部

〒102-0074

東京都千代田区九段南2丁目3番14号 靖国九段南ビル6F

電話: 03-3234-6421 FAX: 03-3239-5805

レポート内容は弊社ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.apex-co.co.jp>

目次

会社概要	1	
経営理念	3	
環境方針	3	
ごあいさつ	4	
環境への取り組み		
気候変動問題への取り組み ～低炭素社会の構築のために～	5	●●●●
生物多様性保全への取り組み ～持続可能な調達のために～	9	●●●●
廃棄物の削減・資源の再利用 ～環境型社会の構築のために～	11	●●●●
環境負荷の低減	17	●●●●
環境マネジメント	19	●●●●
社会との関わり		
CSR活動・地域コミュニケーション活動	21	●●●●
これまでの歩み	22	●●●●



未来の
ために、
いま選ぼう。

経営理念

常に改善・改革を繰り返し、最高の商品とサービスを提供する
正当な利益を創り、働く仲間の成長と社会への責任を果たす
環境保全活動に最善を尽くし、地球環境との調和を図る

アベックスグループ環境方針

基本理念

(1999年制定 2016年改訂)

経営の最重要課題の一つに「地球環境との調和」を掲げるアベックスグループは、環境経営を事業活動の基軸にし、自然と共生した持続可能な低炭素社会の実現を目指して環境保全活動に最善を尽くします。

基本方針

1. アベックスグループは、自動販売機オペレーター業界の一員として、バリューチェーン全体を視野に入れ、事業活動のあらゆる側面において、環境負荷の低減ならびに汚染の予防に努めます。
 - (1) 環境パフォーマンスの向上を図るため、環境マネジメントシステムを機能させ、運用し、継続的に改善します。
 - (2) 循環型社会の実現と省資源に向けて、原材料・エネルギーなどの4R※（リデュース、リユース、リサイクル、リカバー）を、適正且つ積極的に推進します。
 - (3) 水や農産物等、生物多様性の恩恵を享受する企業として、その価値と重要性を意識し、保全に努めます。
2. アベックスグループは、環境側面に関係して適用可能な法規制・協定及び自主管理基準について、高いモラルで順守します。
3. アベックスグループは、地域に密接した環境保全活動を行うとともに、地域の皆様との関わりを大切にし、良好なコミュニケーションに努めます。

※4Rについて

アベックスでは、1996年に環境部を設けて以来、一般的な「3R」（「Reduce - 発生物を抑制する、削減する-」、「Reuse - 再利用する-」、「Recycle - 再生する-」）に、「Recover - エネルギーで再利用する-」を加えた「4R」を推進しています。4つめの「R（Recover）」とは、アベックスの取り組みの特長の1つで、自動販売機から排出される可燃廃棄物をRPFという固形燃料にし、エネルギーとして再利用するという活動（詳細は、11～13頁・15頁をご参照ください）です。



ごあいさつ

品質は信頼。 アペックスはこの原点が、何よりも大切であると考え、 お客様との価値を共有化してまいります。

この度、平成28年(2016年)熊本地震で亡くなられた方々に哀悼の意を捧げますとともに、被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

アペックスでは、災害対応型自販機の設置、紙カップや飲料水のご提供を通じ、被災地における支援のお役に立てればと考えております。今後も、被災者の方々と連携しながら、少しでもお役に立てるよう努めてまいります。

一日も早い復旧がなされますことをお祈りいたします。

アペックスは、カップ式自動販売機の先駆者として、自動販売機という調理機器で作る一杯のお飲み物に最高の品質とおいしさを求め、提供することに専念しております。お客様に「おいしい」を通して、「最高のひととき」を提供するための品質管理には万全を期しております。全ては、その信頼なくしては成り立たないものであると認識しております。

もちろん、原材料や機械の開発もおいしさの源をなすものですが、決して忘れてはならないものが、例えば、コーヒー豆や、地元で育まれた水などの自然の恩恵です。食品に携わる業を営むアペックスにとって、自然環境との共生が非常に重要であることは言うまでもありません。

世界の年平均気温が、統計開始以来、過去最高を更新した2015年、COP21において、2020年以降の温暖化対策を規定する「パリ協定」が採択されました。世界の温室効果ガス削減の交渉は、停滞期間を経て、歴史的な合意に達したという点において、非常に価値ある合意です。将来の気温上昇も2℃未満に抑えるだけでなく、1.5℃までに抑える努力目標も明記されたということは、気候変動のリスクを考慮し、気温上昇を2℃よりも下げた方がいいという共通認識によるものです。

パリ協定は、気候変動リスクの緩和につながるものですが、人々にとっても企業にとっても、大きな変革へと向かう道標にもなるものと考えます。つまり、これは、

エネルギー効率の向上と消費エネルギーのCO₂原単位改善の絶好の機会であると捉えるべきであり、その取り組みは、企業にとっても大きな改善につながると考えられます。“無理を強いられる”のではなく、むしろ、“やるべき努力”であり、その努力は全体にいい結果をもたらすものであるはずで

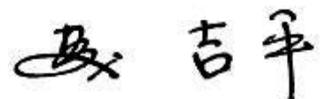
アペックスでは、3年前の創立50周年を機に「紙カップ原紙」を見直し、間伐材を含む国産材100%の原紙を使用することを始めました。それは、日本自動販売機オペレーター業界で初めての取り組みでした。2015年度は、可能な範囲での全数を間伐材含有紙カップに切り替えることが完了しました。2020年の東京五輪では、新しい競技施設でふんだんに国産材が使用される見込みですが、戦後、育成が始まった人工林はちょうど収穫期を迎えており、健全な国内の森林育成に間伐材や合法木材を使用することは重要です。ほんの小さな紙カップに、社会的価値を織り込みながら、微力ながら、日本の森林を育む一歩になることができると考えています。そして、それが、森林本来が持つ二酸化炭素吸収源という役目を果たし、地球温暖化緩和につながるものと考えております。

アペックスでは、今年度、環境方針を改訂しました。今後、一層、環境経営を事業活動の基軸にし、安全・安心で快適な生活環境を創造してまいります。

本報告書では、アペックスが目指している方向性や力を入れている取り組みを中心に、昨年度1年間の取り組みを報告しています。今後も皆様のご期待やご要望を踏まえ、持続可能な低炭素社会の構築に貢献できるよう努めてまいりますので、率直なご意見、ご評価とともに、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年7月吉日

株式会社アペックス
代表取締役社長



間伐材や地域材の活用で国内の森林吸収源を育成

業界初*の間伐材紙カップ

アペックスは、創業以来、「カップ式自動販売機」にこだわり、「カップ式自動販売機で提供する一杯のお飲み物」を提供するために必要なすべてに、よりよいものを求めてまいりました。その中のひとつである「紙カップ」においても、お飲み物を注ぐという大切な役割の他に、紙カップでできる環境保全活動として、「紙カップ原紙」に注目しました。

日本では、戦後、造林された人工林が資源として利用可能な時期を迎える一方、木材価格の下落等の影響などにより森林の手入れが十分に行われず、国土保全など森林の多面的機能の低下が大いに懸念される事態となっています。このよう



間伐材を活用した紙カップ

森林の恵みをたっぷり受けているカップ式自動販売機



な厳しい状況を克服するためには、木を使うことにより、森を育て、林業の再生を図ることが急務となっています。

国内の間伐材をはじめとした木材を活用することは、日本の温室効果ガス削減目標を達成するために必要とされる森林整備にもつながります。

紙は、森林資源の賜物です。紙カップ原紙はもともと合法木材を使用してまいりましたが、もう一步推し進めた「間伐材」を活用することにより、森林の手入れが進み、日本の森林の健全なサイクル育成の一助となります。日本の森林を健やかにすることにより、森林が本来もっている機能の1つである水源涵養機能を高め、おいしいお飲み物をつくる上で欠かせない“おいしい水”を育むことにつながります。これをアペックスでは、自然の恩恵を受けて成り立つ事業を営む企業の責務としても欠かせない取り組みと位置付けています。

※自動販売機オペレーター業界

MEMO

地球温暖化の緩和のための間伐の役割

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第5次評価報告書（2014年発表）は、これからの100年間で、どれくらい平均気温が上昇するか4つのシナリオを提示して予測を示しています。それによると、最も気温上昇の低いシナリオで、おおよそ2度前後の上昇、最も気温上昇が高くなるシナリオで4度前後の上昇が予測されています。台風の巨大化、食料生産が危機にさらされるリスクの増加、利用可能な水の減少、広い範囲での生物多様性の損失の発生等、気候変動による深刻な影響を抑えるには、地球の平均気温の上昇を、産業革命の前と比べて「2度未満」に抑えることが必要だと考えられており、そのことはパリ協定においても合意されました。人為起因の二酸化炭素を減らすには、二酸化炭素の排出量を減らすことと、森林の働きなどによって二酸化炭素を吸収していくための双方を推進していくことが求められています。

このためには、人工林育成に欠かせない「間伐」という作業が重要です。間伐によって、樹木の成長を促進し、より多くの二酸化炭素を吸収されることが有効なのです。また、間伐を実施することに

より、森林の自然災害への抵抗力が向上したり、表土の流出の防止、水源涵養機能や生物多様性の向上等、森林のもつ多面的な機能が発揮されるようになるというメリットもあります。

※1本の元気なスギの木は、1年で4キログラムの二酸化炭素を吸い込んでくれます。例えば、車1台の二酸化炭素排出量を、スギの木160本で吸収できるということになります。

間伐が遅れた森林



間伐が行われた森林



(林野庁提供)

自動販売木®の展開

アペックスでは、間伐材紙カップを使用し、地産材シートによってラッピングしたカップ式自動販売機を「自動販売木®」と名付け、展開を始めました。例えば、東京都内の「自動販売木®」には多摩産材を、栃木県内の「自動販売木®」には栃木県産材を、というように、「自動販売木®」には47都道府県の地産材を活用すること



ができるのが特長です。地元のおいしい飲料水を活用し、地元を大切にするアペックスのカップ式自動販売機ならではの取り組みです。

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律(平成22年10月施行)」の施行以来、官公庁や小中学校、公共施設等の木造化、木質化が進められています。木材利用を推進することにより木材資源の循環利用を促進し、木材の「地産池消」と森林機能の維持増進、地場産業の活性化推進を図ることを目的にしていますが、こうした木材の利用拡大という目的の他、木肌や木目の温もりがもたらす癒し効果にも期待が寄せられており、アペックスの自動販売木®もご利用いただくお客様から「温もりがある」「木の温かさが感じられる」というありがたいお声を頂戴しています。

※自動販売木®はアペックスの登録商標です。



気候変動問題への取り組み

TOPIC

自然の大切さを伝えています。

「Forest Good 2015 ~間伐材利用コンクール~」や「Forest Good 交流セミナー」のパネルディスカッションに参加したり、IPCCリポートコミュニケーターとして自然の大切さを伝える活動を行っています。また、今年も、こどもたちへの出前授業を行いました。



「Forest Good 交流セミナー」におけるパネルディスカッション



滝川市立江部乙小学校での出前授業

TOPIC

「ウッドデザイン賞」を受賞しました。

木の良さや価値を再発見させる製品や取組について、特に優れたものを消費者目線で表彰し、木材利用を促進する新しい顕彰制度「ウッドデザイン賞2015」(主催:ウッドデザイン賞運営委員会、後援:林野庁)の記念すべき第1回において、アペックスの間伐材紙カップが「ウッドデザイン賞」を受賞しました。



環境に配慮したエコベンダーで環境負荷低減

業界最省エネクラス カップ式自動販売機の開発

アベックスは、専門オペレーターとしては唯一自社内に開発部門を有し、グリーン購入法の基本方針に示される『判断の基準』に適合した、独自の自動販売機開発を続けています。ヒトにとって都合よくても、地球にとって後ろめたさを感じる「便利」には賛同できません。お飲み物をお買い上げいただくお客様にとって、また、自動販売機をオペレートするオペレーターにとっても使いやすく、そして、地球にとっても負荷の小さい自動販売機の開発を使命とし、今後も製造から廃棄・リサイクルに至るライフサイクル全般にわたる環境負荷低減に努めた、独自の自動販売機開発を続けてまいります。



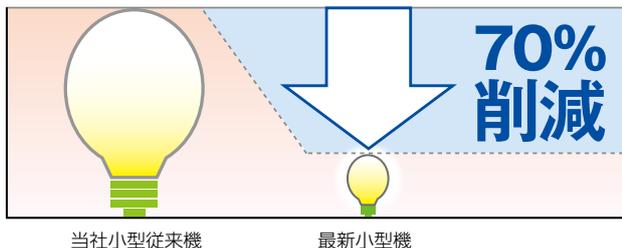
APEX 85QVR

特長

● 大幅な年間消費電力量の削減

トップランナー基準値を大きく達成するとともに、CO₂の大幅削減に貢献します。

CO₂排出量 カップ式自動販売機1台当たりCO₂排出量推移

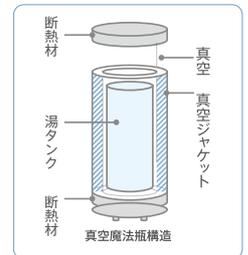


● CO₂冷媒を採用

冷却システムにノンフロン冷媒(CO₂)を採用しました。ノンフロン冷媒だから、オゾン層破壊係数「0」、地球温暖化係数(GWP)「1」。地球温暖化防止にも、オゾン層保護にも貢献した、いま、最も環境に配慮した冷媒です。

● 熱を逃がさない魔法瓶構造

タイガー魔法瓶株式会社の技術を応用して、共同開発した「真空断熱ジャケット」を湯タンクに搭載。保温機能が格段に向上し、消費電力量の大幅削減を実現しました。



● ピークシフト・ピークカット機能搭載

24時間内で任意の時間帯設定が可能ですので、ロケーションの状況に応じた組み合わせに対応できます。

● スリープモード機能搭載

カップ式自動販売機は、食品衛生上、完全に全ての電力を断つことが難しいのですが、例えば、ご利用のない休日に、ほぼ完全停止に近い環境を作り出すことができる機能です。電照表示部の消灯および湯タンク運転・水槽運転・製氷運転の電力を最小限にして販売不可となり、設定した時間になると「販売中」に復帰する高効率なものです。

● 蛍光灯レス

標準出荷時は、蛍光灯レス。人感センサー連動のLED照明導光板を、オプションで準備しています。

TOPIC

最新機種は、挽きたて、淹れたてを“見える化”しました。

従来の同サイズ機の乾燥質量より約30%の軽量化を実現。省資源化、輸送時のエネルギー削減を図りました。

APEX 100RS

TOPIC

いざという時、頼りになるのもカップ式自動販売機ならでは。

異常気象が恒常化する昨今、日本全国で非常時に対する意識はますます高まりを見せています。非常時は、飲料確保の手段に多様性を持たせることがとても重要です。アペックスでは、東日本大震災の復興支援での経験を活かし、非常時に十分とはいえない切れない自助・公助を補完する共助の1つの術として、災害対応型カップ自販機を提案しています。今後の防災を見据えた対策として、業種業態を超えて関心は高まっており、地方自治体様や病院様、企業様等との「災害時における支援協定に関する協定書」締結が進んでいます。2015年度は、3ヶ所の協定締結先(山梨県上野原市役所、徳島県那賀町役場、茨城県つくばみらい市

総合運動公園体育館)で災害対応型カップ自販機が稼働し、被災地を支援しました。

茨城県つくばみらい市での事例

記録的な豪雨に見舞われ、鬼怒川の決壊した2015年8月、つくばみらい市総合運動公園体育館が避難所として開放されました。



つくばみらい市総合運動公園体育館に設置された災害対応型カップ自販機

標準メニュー



災害時メニュー



災害時には、コーヒーや清涼飲料水の他に、「お水」と「お湯」の供給が可能になります。お薬の服用や、乳児のミルクをつくるのに役立っていただけます。紙カップは衛生面でも優れているうえ、乳児にミルクを飲ませるために飲み口を自在に変形できるのも特長の1つです。

気候変動問題への取り組み

MEMO

安全・安心は、おいしさです。～アペックスの品質管理体制～

コーヒーや、清涼飲料水を製造するのに、水は欠かせません。缶やPETボトルという容器に予め充填された飲料も同じことです。とりわけ、その場でその都度飲み物をつくるカップ式自動販売機は、自動販売機内がいわば飲料製造工場や喫茶店と同様ですから、アペックスは「その場の水」にこだわります。

そこで、アペックスでは、使用する水の状態に応じて、最適な水フィルターを使い分けています。また、同じ種類のフィルターの中でも、より高レベルのものを使用し、安全・安心はもとより、飲み物の「おいしさ」を大切にしています。

- カーボンフィルターは残留塩素や懸濁物を除去します。
- 除菌フィルターは残留塩素や微粒子、原虫を除去します。



また、アペックスでは、販売サービス部門に携わる社員の知識と技能の向上を図るため、国家検定「自動販売機調整技能士」の資格の取得を奨励し、社内の技能評価の基準として採用しています。

等級	特級	1級	2級
人数	34人	344人	394人

毎日飲むから、コーヒー豆に環境配慮

サスティナブルコーヒーの展開

コーヒーは、アペックスがこだわる“最高の一杯”の代表格です。そんなコーヒーのおいしさを左右する最大の要因と言っても過言ではないものに、コーヒー豆が挙げられます。コーヒー豆の産地は、「コーヒーベルト」と呼ばれる、北回帰線と南回帰線の間の赤道付近の帯状の地域に集中しています。アカネ科の常緑樹であるコーヒーノキは、温暖な気候を好みます。平均気温は約20℃、年間降雨量は約1,500～2,000mm、水はけが良く、適度に日当たりのいいことが条件な、非常に気候に繊細な植物です。



コーヒーベルトは、生物多様性の宝庫でもあります。コーヒー豆は、気候という自然条件や生物多様性が育んだ産物です。コーヒー市場が拡大を続け、手軽にコーヒーを飲める機会が増えているいま、そんなコーヒー豆の育まれている環境や生産者をしっかり見つめることはこれまで以上に重要です。今日だけではなく、明日もおいしいコーヒーを飲むためには、生産地や生産者、流通にも配慮した

コーヒーを、まずは「選ぶ」ことが重要だとアペックスは考えます。お客様に「おいしいコーヒー」を、自信をもっておすすめしたいからこそ、環境にも労働者にも配慮した農園で栽培されたコーヒー豆を選びたいという思いから、現地にも赴き、「おいしさ」だけでなく、「サスティナビリティ」という指標をもって選定しています。アペックスでは、2001年に「有機栽培生豆100%コロンビア」の展開を開始。また、2010年からはレインフォレスト・アライアンス認証農園豆の使用を開始し、現在、展開中の「ブラジル」は、同認証農園であるイパネマ農園で生産されたコーヒー豆を30%使用しています。



コーヒーの花



コーヒーチェリー

MEMO

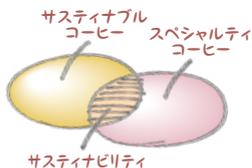
レインフォレスト・アライアンスとは

地球環境保全のために熱帯雨林を維持することを目的に設立された国際的な非営利環境保護団体です。本部は米国ニューヨーク。レインフォレスト・アライアンスの基準を満たす農園や森林には、アメリカ、ヨーロッパ、アジアなどの企業や消費者に広く認知されつつある認証マークを使用する資格が与えられます。



スペシャルティコーヒーの展開

近年のコーヒーブームにより、よく耳にするようになった「スペシャルティコーヒー」。サスティナブルコーヒーとスペシャルティコーヒーの共通項は「サスティナビリティであること」です。ともに持続可能性を重んじており、それはコーヒー産業全体の存続に寄与するものであるとされています。



アペックスでは、際立つ風味特性を持ち、氏素性のはっきりした安心・安全の品質、ある一定の限られた時期だけ、少

量しか手に入らない特別なスペシャルティコーヒー（「The ORIGIN of Apex」シリーズ）の展開を新たに開始しました。今回紹介するリオベルデ農園のコーヒーは、Ipanema Reserve（イパネマリザーブ）です。イパネマ在籍のヘッドカッパーによってその年の最高のカップクオリティーのみが選ばれ数量限定で生産されます。イパネマコーヒーの中でも厳選されたマイクロロットを是非お楽しみ下さい。



※「The ORIGIN of Apex」シリーズは、数量限定、期間限定で展開していますので、売切れの際にはご容赦ください。

MEMO

生物多様性を重んじるイパネマ農園

イパネマ農園はブラジルで最大のコーヒー生産地域であるミナスジェライス州南部に位置しています。栽培面積3,500ha、栽培本数1,200万本、年間最大生産量は12万袋以上と世界最大級のプライベート農園とも言われています。栽培、精選、選別、輸出までの全プロセスを行っており、トレーサビリティも確立しております。



野生動物の生態系を守るため、「けものみち」



TOPIC

アペックスのコーヒー鑑定士

「コーヒー鑑定士(Classificador)」は、ブラジルのサントス商工会議所が認定する資格制度。コーヒー豆の買い付けや販売、輸出、相場感覚などの商業上の知識や、コーヒー豆の格付けをするための知識、ブレンド製造の技術を身につけた者が取得でき、現在、アペックスには1名のコーヒー鑑定士がいます。



コーヒー鑑定士 石原豊史さん(開発室)



コーヒー鑑定士の身分証明書

「ブラジル滞在中、2000検体以上カップピングを行ったことが一番の自信になりました。」

TOPIC

コーヒーインストラクターの育成

アペックスでは、コーヒーのプロとして、コーヒーのより専門的な商品知識を身につけることにより、お客様と円滑なコミュニケーションを図ることを目的に、全日本コーヒー商工組合連合会が認定しているコーヒーインストラクターの養成を、2014年度より奨励しています。現在、アペックスには、全国に219名のコーヒーインストラクターがおります。



TOPIC

M-one café Coffee System (エムワン カフェ コーヒーシステム)

本当においしいコーヒーをお届けするには、質の良いコーヒー豆とそのコーヒー豆のおいしさを最大限に引き出すコーヒーマシンとのマッチングが大切です。「M-one café Coffee System(エムワン カフェ コーヒーシステム)」は、そんな考えに基づき、コーヒー豆とコーヒーマシン、そして、メンテナンス技術サポートまでをトータルで提供するもので、カップ式自動販売機で培ったコーヒー豆の味と香りを引き立てる術を知る、アペックスならではのドリンクシステムです。



イタリアンパブル「Marcato」

コーヒー豆

アペックス独自の味覚基準、品質基準に則り、豆の選定からブレンド、ロースト、そして最適なレシピづくりを行っています。

マシン

常に安定した品質と味を確実に再現するために、独自のアイデアと最新技術を搭載したマシンを開発しました。

メンテナンス

突然のマシントラブルにも迅速に対応。また、定期的な保守点検や味覚チェック等の品質管理を実施する等、充実したサービスを行っています。

おいしい高品質なコーヒーをお届けするためには、コーヒー豆とマシン、サポート体制の三位一体が大切です。

魅せるコーヒーマシンで1杯ずつ「淹れたて」を演出

レッドボディ&スケルトン 臨場感あるスタイリッシュデザイン。

ペーパードリップ&エスプレッソ 独自機構で本格レギュラーコーヒーとエスプレッソコーヒーが抽出可能。

多彩なメニューに対応 オプションのミルククーラーを付ければ、カフェラテやカプチーノもボタン一つで抽出。



スリムなフォルムで本格コーヒーをもっと身近に

レッドボディ&コンパクト スペースの少ない場所でも設置可能。

ペーパードリップ方式 1杯ずつ豆を挽き、ドリップする本格マシン。

抽出がスピーディー 味を損なわずにクイック抽出を実現。



資源の循環利用を推進

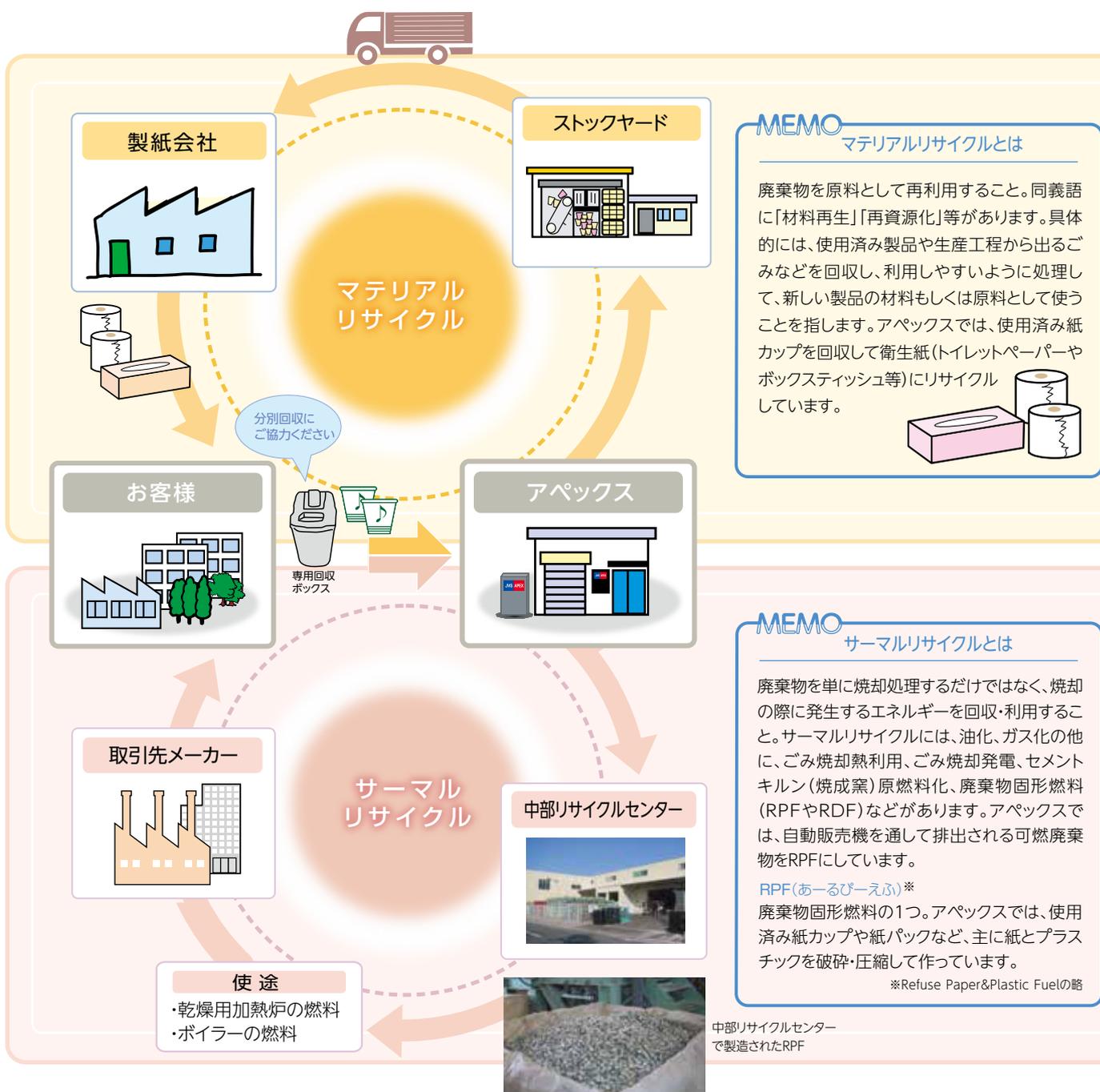
容器包装と食品残渣の循環利用

アベックスでは、廃棄物の削減・資源の循環を図るために、回収した紙カップのマテリアルリサイクルを1998年から行っています。また、2001年からは「可燃廃棄物」をリサイクルの対象物としたサーマルリサイクルにも取り組んでいます。

容器包装類、プラスチック類の廃棄物を回収からリサイクルまで責任を持って一括管理することにより廃棄物の削減に努め、循環型社会構築に貢献しています。

使用済み紙カップ等のリサイクル・リカバー

アベックスのリサイクルシステム



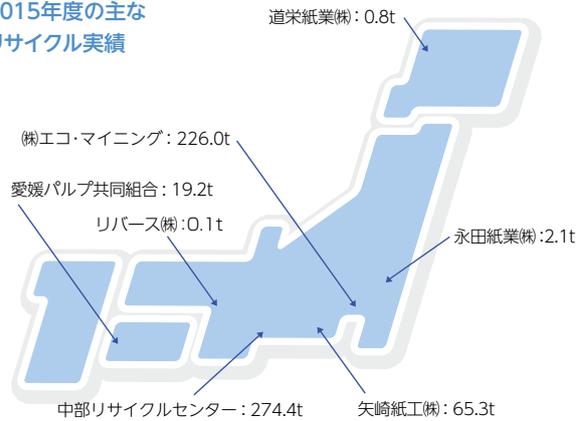
●今後のリサイクル展開計画と課題

リサイクルを実施するうえで、運送効率をあげることは非常に重要な課題です。アペックスでは、まだ改善の余地があると考えており、今後も、新たな回収ルートや地元協力会社との提携等の検討を重ねることにより、輸送距離短縮や効率化による環境負荷低減を図り、リサイクルの効率化を目指します。

今後も、それぞれのリサイクルの特長を活かしつつ、より環境負荷の低いサーマルリサイクルを中心とした、紙カップリサイクルを推進していく予定です。



2015年度の主な
リサイクル実績



●アペックスのマテリアルリサイクル
(紙から紙へ)

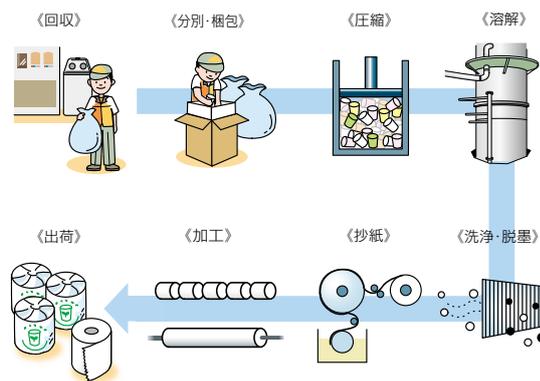
アペックスでは、廃棄物の削減、森林資源の保護、生物多様性の保全や、水資源・土壌の保護を地球環境問題の重要な課題であると考え、その取り組みの1つとして、紙資源の有効活用をしています。

アペックスでは、1997年、当時はリサイクルできないものの1つと言われていた紙カップのマテリアルリサイクルシステムを確立。翌年の1998年より、回収した紙カップを衛生紙(トイレットペーパーやボックスティッシュ等)へリサイクルしています。

2015年度の実績

2015年度は、約90tの使用済み紙カップ等のマテリアルリサイクルを行いました。

マテリアルリサイクルシステム



● ● ●
廃棄物の削減・資源の再利用

●アペックスのサーマルリサイクル
(紙・廃プラからエネルギーへ)

2001年3月、自動販売機を通して排出されるすべての可燃廃棄物のリサイクルを目指し、愛知県大府市において「車輛搭載型固形燃料化設備」を保有し、中部地区の事業所から発生する可燃廃棄物の固形燃料(RPF)化を実施しました。そして、2004年10月に開設した[中部リサイクルセンター]では、産業廃棄物処分業許可を取得し、アペックスが運営する自動販売機を通して排出されるものもとより、社外から発生する廃プラ類をも受入れ、固形燃料化し、廃棄物の削減に努めています。

製造したRPFは、検査機関に持ち込み、重金属や塩素等の項目について成分分析を行っています。

アペックスのRPFは、家庭系一般廃棄物から製造される生ゴミ・水分を主体としたRDFとは異なり、原料が安定しており、塩素や水分がほとんど含まれていないので、安心してご使用いただける固形燃料です。

2015年度の実績

2015年度は、約1,460tの使用済み紙カップ等のサーマルリサイクル(余熱利用等含む)を行いました。

	アペックスのRPF	RDF
発熱量(cal/g)	6,000程度	4,000程度
塩素分(%)	0.2未満	2.0未満

※中部リサイクルセンターのRPF化ラインで製造されたRPFの成分と一般的なRDFを比較

資源の循環利用を推進

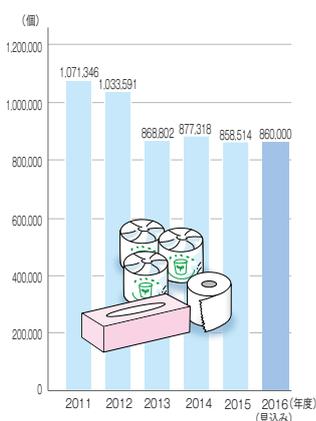
資源の循環のために

アベックスでは、循環型社会構築のために、回収した可燃廃棄物をリサイクルするだけでなく、自主的に拡大生産者責任を課し、リサイクル製品の販売を実施し、資源の循環に努めています。

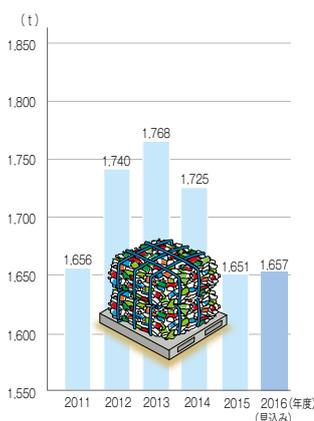
●衛生紙(トイレトーパーやボックスティッシュ等)

学校や企業などの自動販売機設置先であるお客様にご利用いただいています。

衛生紙販売量



資源化物販売量



●RPF

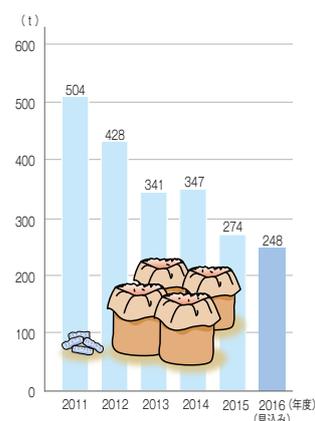
石炭の代替燃料として使用されています。

※RPF1tは、石炭0.83tに相当します。

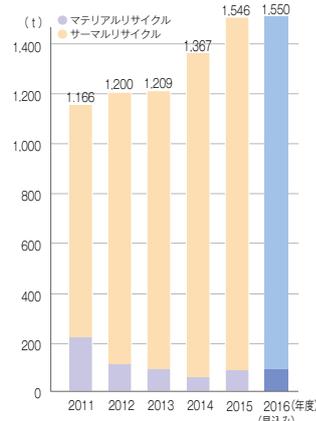
●資源化物

種類毎にメーカーに販売し、再商品化されています。

RPF販売量



使用済み紙カップリサイクル量



リサイクル工場見学会の実施

アベックスでは、弊社のリサイクルシステムをご確認いただくため、お客様のご要望に合わせて、富士市のストックヤード及び製紙工場、中部リサイクルセンター、日本ベンダー整備株式会社等のご案内をしております。



中部リサイクルセンター



古紙ストックヤード

TOPIC

廃棄物の削減

旭川市では、ごみの減量やリサイクルなどの環境に配慮した取組を積極的に行っている事業所を、「ごみ減量等推進優良事業所」として認定しており、アベックスの旭川営業所が、平成27年度のごみ減量等推進優良事業所(シルバー)と認定されました。

MEMO

RPFについて

- 化石燃料の代替となりますので、資源枯渇防止に役立ちます。
- 化石燃料と同等の熱量があります。
- 灰分化率は一般的に3~7%*。石炭は11~15%程度なので、使用後の灰の埋立て処分量が削減できます。
- コンパクトな形状でハンドリング性に優れています。
- 歩留りが良いうえ、素材段階からリサイクル段階に要するエネルギーの小さい燃料です。

- 紙カップと廃プラの分別の必要がないため、作業効率にも優れます。
- 石炭(例 輸入一般炭)に対して、燃焼時に同一熱量回収を行う過程で石炭よりも約33%のCO₂排出量削減*になり、地球温暖化防止に貢献します。 *日本RPF工業会調べ



コーヒー残渣リサイクル

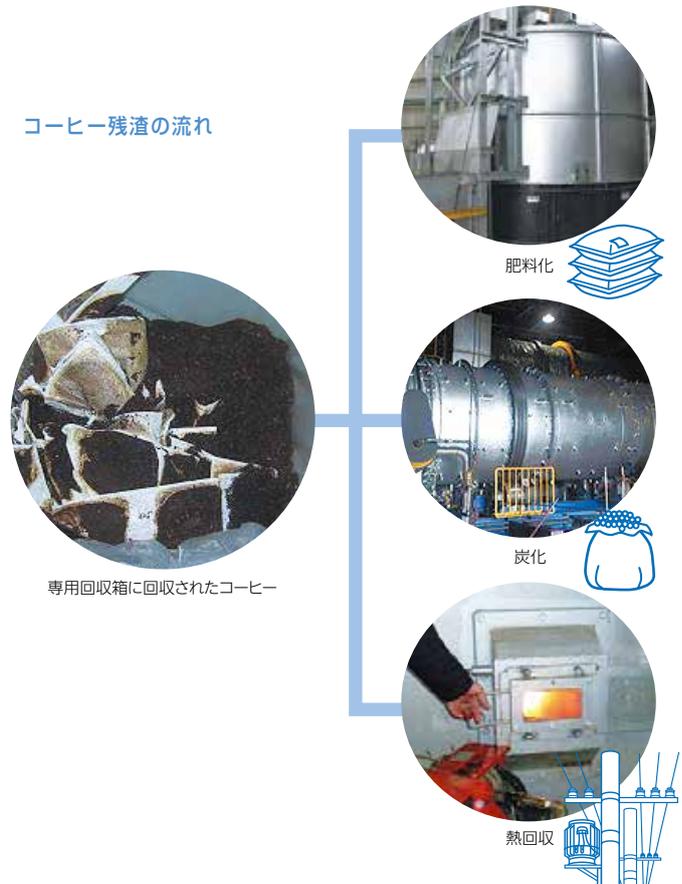
カップ式自動販売機のレギュラーコーヒーは、お客様からオーダーをいただくと(商品ボタン選択後)、その都度、コーヒー豆を挽き、ペーパーフィルターで濾しています。その後、コーヒー残渣は、自動販売機内で脱水し、減量化した状態で、機械内部に据え付けてある専用回収箱に捨てられます。

アペックスでは、このようなレギュラーコーヒー抽出後の残渣を、2008年度から、中部エリアで、肥料へとリサイクルする取り組みを始めました。専用回収箱から回収されたコーヒー残渣は、ペーパーフィルターを除去し、食品以外の異物がない状態にして、肥料製造元に出荷しています。アペックスのコーヒー残渣から生まれ変わった肥料は、製造元との契約農家やJAに販売され、ご利用いただいています。2012年度からは取り組みエリアを拡大し、関東エリアにおいては熱回収(一部、売電)をし、東北エリアにおいては肥料へとリサイクルしています。

一方、関西エリアにおいても、レギュラーコーヒー抽出後の残渣を、2010年度から炭へとリサイクルする取り組みを実施しています。

これらの取り組みは今後も継続して行い、リサイクル率を高めていく予定です。それにともない、残渣回収エリアの拡大、回収の効率化に努めるとともに、食品リサイクルを通して、食品残渣の再生利用化を図り、食品廃棄物の削減に今後も貢献してまいります。

コーヒー残渣の流れ



● ● ●
廃棄物の削減・資源の再利用

TOPIC

グリーンカーテンの育成

カップ式自動販売機から排出されるレギュラーコーヒー残渣リサイクルを推進するアペックスと、夏の節電・省エネルギー活動の一環でグリーンカーテン育成に取り組む京セラコネクタプロダクツ株式会社様とで、レギュラーコーヒー残渣のリサイクルによって生まれた肥料を使ったグリーンカーテンづくりに取り組みました。育てた苗は、横浜市民のみなさんに無料配布し、夏の節電・省エネを呼びかけました。



資源の循環利用を推進

中部リサイクルセンターの取り組み

アベックスでは、2004年10月、RPF(固形燃料)製造の拡大効率化と、缶・PETボトルの自社内リサイクルの体制を整えることを目的に、愛知県東海市に[中部リサイクルセンター]を開設しました。

同センターではRPF化ラインと資源化ラインの2つのラインを持ち、廃棄物の削減と循環型社会構築に貢献するため、飲料自動販売機を通して排出される、中部エリアにおける使用済

みのすべての容器包装類(紙カップ、原料袋、缶、ビン、PETボトルなど)のリサイクルを自社で責任を持って行っています。



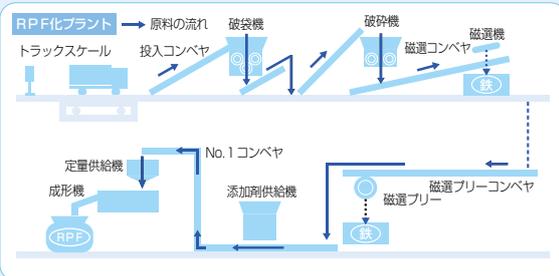
中部リサイクルセンター

ブロックにプレスされたPETボトル

固形燃料(RPF)化ライン

固形燃料化ラインでは、自社の自動販売機から排出される紙カップ、原料袋などの容器包装類、廃プラスチック類(社外から受け入れたものを含む)を、破碎・圧縮し、直径15mm・長さ50mm程度のクレヨン状に加工します。製造した固形燃料は、検査機関に持ち込み、高位発熱量、灰分、水分、硫黄、塩素の5項目について成分分析を行っています。

石炭の代替として、乾燥用加熱炉の燃料やボイラーの燃料として使用されます。

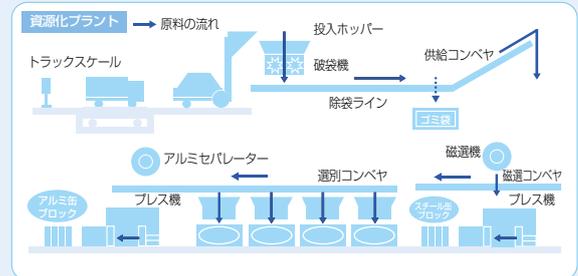


[固形燃料化ライン]

- 取り扱い品目
紙カップ・原料袋・紙パック・紙(複合紙)・廃プラスチック類等
(※塩化ビニール不可)
- 処理能力: 3.6t/日

資源化ライン

資源化ラインでは、主に自動販売機を通して排出された、空きスチール缶・アルミ缶・PETボトル・ビンを選別し、スチール缶は35kg、アルミ缶は7kgのブロックにプレスします。また、PETボトルとビンは手作業で分別を行います。選別・圧縮された空容器は、各メーカーに出荷後、再商品化されます。



[資源化ライン]

- 取り扱い品目
スチール缶・アルミ缶・PETボトル・ビン
- 処理能力: 12.0t/日
- 処理能力: 4.0t/日
PETボトルのベラー機(橋内)

MEMO

よりよい労働環境づくりを目指して

中部リサイクルセンターでは、よりよい労働環境づくりを目指し、騒音障害防止やそれに伴う二次災害防止に向けた取り組みを徹底しています。



耳栓を着用しての作業を義務化



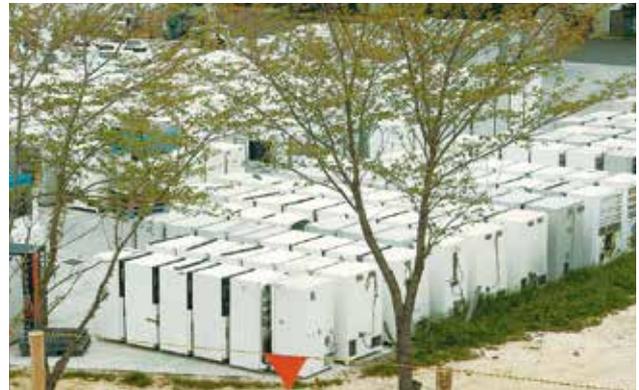
二次災害防止のために

日本ベンダー整備株式会社の取組み

●自動販売機の長寿命化

アペックスは、1966年、オペレーターとして初めて自動販売機の整備を開始。その後、整備部門は、1976年、日本ベンダー整備株式会社として独立しました。

アペックスでは、機械メーカーから購入し、お客様先に設置した自動販売機を、当社規程に基づき、日本ベンダー整備株式会社が計画的に整備を行っています。この計画的な整備の実施により、長寿命化を図り、省資源化、廃棄物の削減に努めています。



全国から整備のために集まった自動販売機

●整備と環境負荷低減

日本ベンダー整備株式会社では、稼働時の故障や整備時の改良点等について、アペックスと情報の共有化を図りながら整備を実施しています。それらの情報は、次の新機種開発にも



(整備)分解工程

活用され、自動販売機の進化に大いに役立てられています。また、単なる整備ではなく、デザイン変更や新機能搭載等、積極的な改造や修理等も行っています。そして、既存の自動販売機の内部で使用している保温材や断熱材からホース1本に至るまで、1点1点の部材の材質を見直すこと等により、どれぐらいの環境負荷低減を図ることができるのか検証を続けながら、さらなる環境負荷低減を実現させるべく取り組みを行っています。2001年6月に開設したJVRリサイクルセンターでは、廃棄する自動販売機から、社内基準に基づいた再生可能部品の回収を行っています。回収した部品は、日本ベンダー整備株式会社で再生し、自動販売機の整備や修理に使用しています。

2015年度の実績

2015年度は、4,080台の自動販売機の整備を行いました。

●円滑で継続的な環境活動のために

日本ベンダー整備株式会社は、開発室の原料加工センターとともに、2000年12月、ISO14001を認証取得しました。自動販売機の整備工場と原料の加工センターという、オペレート業務とは異なる業務内容であることから、適用を受ける法令等もアペックスとは異なり、それぞれの厳しい基準を順守するために独自の活動を行っています。

活動をパソコンで一元管理し、文書管理や活動の進捗管理をはじめ、順守評価や不適合是正報告の管理や有資格者の管理・教育に至るまで、誰もがいつでも確認できるシステムで運用管理しています。また、行政等への届出や許可証

の有効期限が近づくと警告が表示されたり、万一滞っている活動や報告がある場合にも警告で知らせ、注意を喚起します。日本ベンダー整備株式会社では、この一元管理で、活動のクオリティの均一化を図りながら、今後も活動と管理の充実に努めてまいります。



環境負荷の低減 —事業活動における環境負荷—

マテリアルバランス

アベックスでは、バリューチェーン※1から発生する環境負荷の継続的な低減を図り、地球全体の収支バランスの調和がとれるよう資源を循環させるために、環境負荷を可能な限りライフサイクルでとらえることに努めています。

●容器包装類

容器包装の循環・再資源化に向けて

アベックスでは、お客様のもとから回収した紙カップや缶・PETボトル等の空き容器のマテリアルリサイクル・サーマルリサイクルを実施しています。

●レギュラーコーヒー残渣

食品残渣の循環に向けて

レギュラーコーヒー抽出にともない発生する残渣については、2008年度に中部エリアで肥料化リサイクルを開始。その後、順次リサイクルエリアを拡大し、肥料化の他に、炭化や熱回収も行っております。

●エネルギー起源によるCO₂排出量

地球温暖化の緩和に向けて

より消費電力量の小さい自動販売機の開発や、お客様への適正台数・適正配置の設置提案、また、旧型の自動販売機から新型のものへの入れ替え等により、自動販売機から排出されるCO₂削減に取り組んでいます。また、業務全般にわたる改善にも積極的に取り組んでいます。

●紙カップやコーヒー豆の調達

環境負荷をライフサイクルでとらえるために

紙カップ原紙には合法木材を使用することはもちろん、国内の健全な森林育成のために、間伐材を含む国産材使用にこだわります。また、コーヒー豆の調達には、生物多様性の保全も視野に入れる等、エシカル調達※2に配慮しています。

MEMO

※1 バリューチェーン

米ハーバード大学のマイケル・ポーター教授が、著書『競争優位の戦略』(1985年発表)の中で提唱した概念。日本では、「(付加)価値連鎖」と表現されます。サプライチェーンが「モノ」の流れを意味するのに対し、バリューチェーンは商品やサービスの「価値」に着目しています。

※2 エシカル調達

グリーン調達に加えて、環境問題や人権問題など様々な側面を調査した上で調達することをいいます。

自動販売機オペレーター事業フローとマテリアルバランス(主要物資)

INPUT



エネルギー

電気：283万kwh
ガス：29km³
灯油：8kℓ



水

19km³



エネルギー

ガソリン：1,293kℓ
軽油：2,057kℓ

コーヒー豆

サステナブルコーヒーの調達に努めています。



エネルギー

電気：153百万kwh



水

87km³

紙カップ

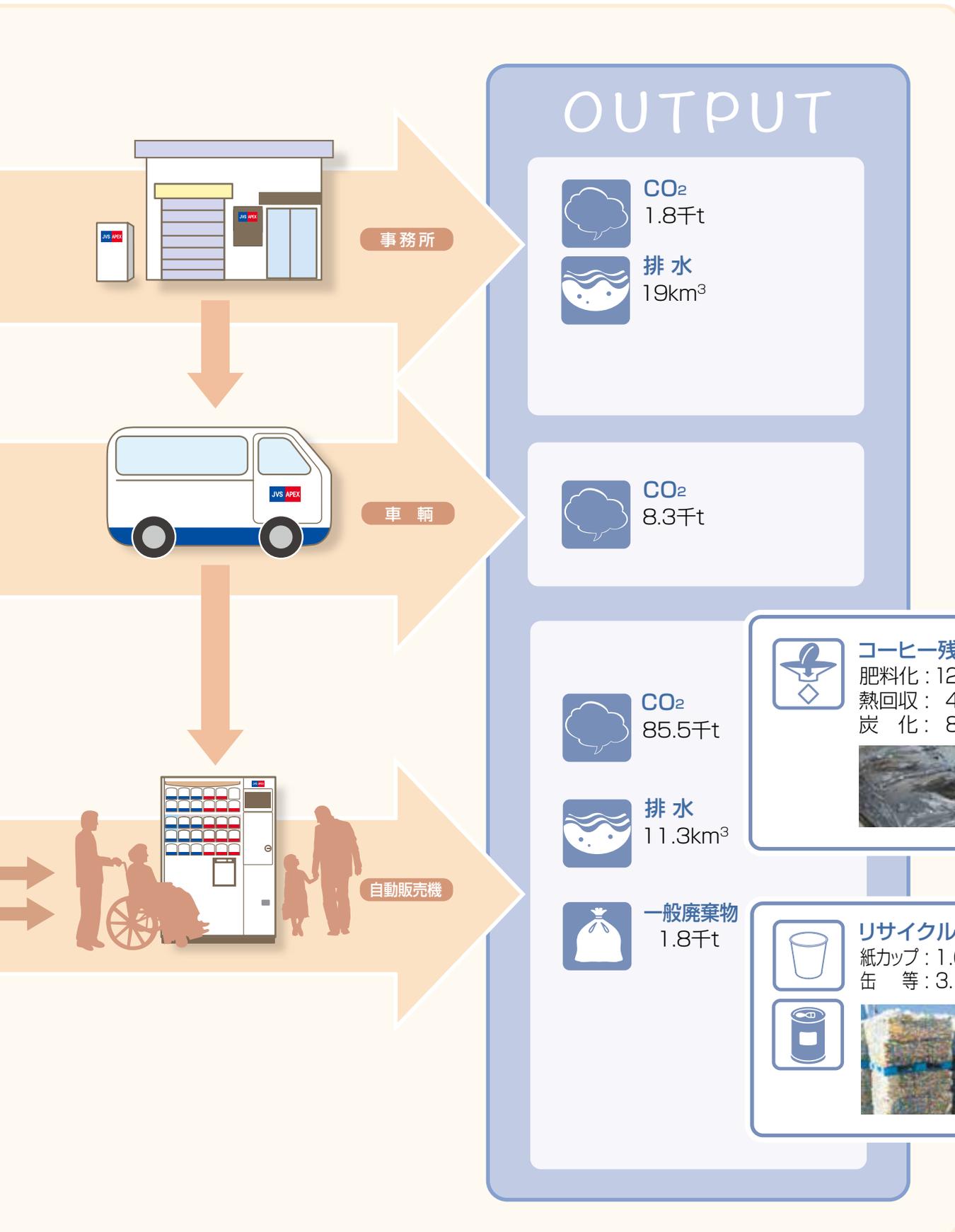
間伐材や合法木材を使用しています。



容器

紙カップ：2.5千t
缶等：3.9千t





OUTPUT

 CO₂
1.8千t

 排水
19km³

 CO₂
8.3千t

 CO₂
85.5千t

 排水
11.3km³

 一般廃棄物
1.8千t

 **コーヒー残渣**
肥料化: 129.3t
熱回収: 46.4t
炭化: 87.3t



 **リサイクル**
紙カップ: 1.6千t
缶等: 3.1千t



●●●
環境負荷の低減

環境マネジメント —マネジメント体制の強化・拡充—

環境マネジメントシステム

●ISO14001をグループで認証取得

アベックスでは、事業活動と環境活動を一体化し、継続的に進化させていく手法の1つとして、全事業所およびグループで、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001を認証取得しています。

●社内環境監査システム

アベックスでは、社内規定に基づき、毎年全部署で社内環境監査を実施し、環境保全活動の妥当性を監視しています。

●2015年度の監査実績

2015年度は、131部署において、環境目標に対する進捗状況や法令等の順守と予防を重視した内容で実施。その結果、[観察]として152件、[軽微な不適合]として69件、改善指摘事項が発見され、[重大な不適合]は発見されませんでした。指摘事項は、社内規程に基づき、速やかに是正処置に取り組み、各監査員が是正内容の確認を行いました。

社内環境監査



名古屋北営業所

●社内評価制度の導入

アベックスでは、環境保全活動を徹底させ、環境側面に関係して適用可能な法規制・協定及び自主管理基準について、高いモラルで順守するため、社内環境活動評価制度を設け、ランクに応じた教育を行っています。

さらに、2016年度からは、社内環境活動評価制度は、人事考課に直結させ、環境経営を事業活動の基軸にまいります。

環境コンプライアンスの強化

アベックスでは、ISO14001の手順に沿って環境影響評価を各現場で毎年行い、重点項目を特定し、環境リスクの未然防止と、発生時の環境影響の拡大防止に努めています。

●2015年度の順守状況

2015年度、環境に関わる法規制などの順守について、規制当局からの不利益処分(許可の取り消し、操業停止命令、設備の使用停止命令、罰金など)はありませんでした。

環境リスク対応規程体系



産廃処理委託業者の現地確認



大阪西支店



香川営業所



大阪南支店



郡山営業所

環境コミュニケーション

環境に関する情報の発信を通じた、ステークホルダーとのコミュニケーションを大切にしています。年に1度「サステナビリティレポート」を発行する他、Webサイト「環境への取り組み」では、環境保全への取り組みについて詳しい情報を紹介しており、定期的な情報を追加・更新することで、最新の情報提供に努めています。

●環境関連の苦情・要望・問い合わせとその対策

2015年度、環境関連の要望・問い合わせは、環境保全活動に関する調査・協力依頼及び問い合わせ等が43件ありました。これらすべての依頼および問い合わせ事項について、速やかに対応いたしました。また、苦情はありませんでした。

社員への環境教育

アベックスでは、環境教育の重要性・必要性を重んじ、環境マネジメントの適正な運用と、環境目標を達成するための教育を全事業所において実施しています。また、より理解を深めるために「理解度テスト」も行っています。



新入社員研修



営業部セミナーにおける環境教育

対象	教育名
全社員	環境一般教育
新入社員	新入社員教育（環境教育有り）
車輛運転者	エコドライブ運転テクニック教育
力量業務従事者	環境特別教育
支社長・部署の長	管理者教育（環境教育有り）
内部環境監査員	内部環境監査員教育

環境計画の概要と評価

アベックスでは、持続可能な社会の実現を目指し、環境方針に基づき、継続的な環境保全活動を行っています。2015年度も、以下のような、具体的な環境目標を設定し、達成するために取り組んできました。

環境影響評価の結果、環境負荷が大きいため環境評価点の高い[車輛給油量削減]や[紙カップリサイクル率向上]については、今後とも各事業プロセスにおいて取り組んでまいります。

環境目的	2015年度環境目標	実績	評価*
地球温暖化緩和・資源枯渇防止・業務改善	【労働分配率改善・化石燃料の有効活用】(全部署) 1カップ(本)あたり給油量(原単位):2012年度比1%削減	達成率: -86.1%	×
廃棄物削減・循環型社会構築	【紙カップリサイクル率向上】(事業統括本部) 年間紙カップリサイクル率:62.0%	達成率: 123.5%	○
社会貢献	【一部署一役運動】(全部署で事務所周辺の清掃活動等を実施) 頻度:2.0回/月(80%の部署で達成)	達成率: 109.4%	○
地球温暖化緩和・資源枯渇防止	【省エネ機の展開拡大】(業務管理部) 台当り消費電力量:2010年度比4%削減	達成率: 302.2%	○
業務改善	【電子マニフェストの導入】(環境部) 拠点への導入と拡大展開の進捗管理:100%	達成率: 100.0%	○
地球温暖化緩和・資源枯渇防止	【環境対応型自動販売機の開発】(開発室) 進捗管理:100%	達成率: 100.0%	○
業務改善	【自動販売機の効率的設置】(第3営業部) 複数台数設置件数:2013年度比25%向上	達成率: 97.6%	×
地球温暖化緩和・資源枯渇防止・業務改善	【労働分配率改善・化石燃料の有効活用】(中部リサイクルセンター) 回収量あたりCO ₂ 排出量:2012年度比3%削減	達成率: 132.3%	○
業務改善	【アベックスHPの認知度向上】(経営企画室) ホームページPV数:2014年度同月比2%向上	達成率: 92.6%	×
業務改善	【車両事故件数の低減】(総務部) 年間車両事故件数:前年度比20%削減	達成率: 86.4%	×
グリーン調達	【グリーン購入法特定調達物品の調達の推進】(総務部) グリーン品目の割合:総購入点数に対し各月84%以上	達成率: 102.5%	○

※評価について 達成率が100%以上のものは達成(○)、100%に満たないものは未達成(×)

環境コスト

環境保全活動に伴う全コスト

(百万円)

会計区分		費用	効果
サービス活動により生じるコスト	リサイクルコスト	65.3	194.2 ^{*1}
	廃棄物処理費	172.7	—
	その他環境整備費	69.8	—
管理活動におけるコスト	ISO14001認証維持費	8.3	24.1 ^{*2}
社会活動におけるコスト	サステナビリティレポート作成等	2.0	—
合計		318.1	218.3

*1 再生品販売費(衛生紙、RPF、資源化物、その他) ※2 2000年(全社 ISO14001認証取得活動開始)と比較した光熱費・帳票代等の削減費用

一部署一役運動

アベックスでは、「私たちは、地域社会に貢献し信頼を集めます。」を行動宣言の一つに掲げ、地域社会との交流・社会貢献活動に力を注いでいます。

2015年度は、事務所周辺の定期清掃、市町村の社会福祉協議会へのリサイクルトイレトペーパーの寄託、環境セミナー等にお

けるパネルディスカッションへの参加や展示、小学生への木育、防災イベントへの参加や展示、啓発活動等を行いました。今後も、いま自分たちにできることは何なのかを見つめつつ、微力ながらもできる限り積極的な地域社会との交流、社会貢献を図ってまいります。

●被災地の支援

2015年度は、アベックスが経営する東京・有楽町のフレンチレストラン「アピシウス」において、2011年に復興支援を目的に開始した「チャリティカレー」を5月・11月に行いました。



チャリティカレー

●行政の取り組みやお取引様に賛同し、緑化・植林活動に参加しました。



ミャンマーでの植林(東京本社)



横浜市が主催する「よこはま森の楽校」で春咲きの花の種をプレゼント
(首都圏営業部・第2営業部・環境部)

●お取引の環境展や防災イベントに出展し、啓発活動を行ったり、地域の清掃に参加しました。



SWS西日本株式会社様 熊本工場環境展(熊本営業所)



第21回日本集団災害医療学会(東北支社・第2営業部)



地域清掃(東京本社)

環境保全活動の歩み

アベックスグループの動き	年 度	国内外の主な動き
・自動販売機の整備を開始	1966年	
・自動販売機の整備工場開設	1973年	
・自動販売機整備部門を「日本ベンダー整備株式会社」として独立	1976年	
・カップ式自動販売機「APEX 2400」発表	1981年	
・カップ式自動販売機「APEX 5000」発表	1986年	
	1993年	・「環境基本法」制定
・環境部を設立	1996年	・「JISQ14001」発効
・デポジット式紙カップ専用回収機「カップエコジット™」発表	1997年	・京都会議(COP3)開催(「京都議定書」採択)
・非木材紙カップの使用開始	1998年	・「家電リサイクル法」制定
・使用済み紙カップのメテリアルリサイクル開始		
・カップ式自動販売機「APEX 120RV」発表 <small>※業界初・映像情報装置搭載</small>		
・ISO14001認証取得(東京本社・開発部・横浜南SC・厚木SC)	1999年	・「PRTR法」制定
・グループ会社日本ベンダー整備株式会社にてISO14001認証取得	2000年	・「循環型社会形成推進基本法」等循環関係法6本成立
・愛知県で移動式固形燃料化設備を導入 - サーマルリサイクルを開始 -	2001年	・環境省発足
・カップ式自動販売機「APEX 120QV」発表 <small>※カップミキシング機構搭載、世界最速クイックベンダー</small>		・「フロン回収・破壊法」制定
・「有機栽培生豆100%使用コロンビア」発売開始		
・JVRリサイクルセンター設立		
・「環境報告書」発行開始		
・全社(101サイト)にてISO14001認証取得	2002年	・「第2回地球サミット」開催(ヨハネスブルグ)
		・「自動車リサイクル法」制定
・新リサイクルプラント建設企画	2003年	・「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」制定
・中部リサイクルセンター設立 操業開始	2004年	・「JISQ14001:2004」発行
・カップ式自動販売機「APEX 130REC(T)」発表 <small>※大型タッチパネル搭載</small>	2005年	・「京都議定書」発行
・中部リサイクルセンター 全ライン操業		
・「ウェステック大賞2005」において事業活動部門賞受賞		
・グループ会社株式会社名古屋フーツにてISO14001認証取得		
・中部リサイクルセンター 拡張工事	2006年	・「電気用品安全法」経過措置期間終了
・「資源循環技術・システム表彰」において会長賞受賞		
・バイオガソリンのテスト使用を開始	2007年	・「改正容器包装リサイクル法」「改正フロン回収破壊法」
・「全国高等学校定時制通信制教育六十周年記念式典」において文部科学大臣賞を受賞		・「改正食品リサイクル法」「改正電気用品安全法」施行
・「VENDEX JAPAN 2008」に出展	2008年	・「第1回アジア・太平洋水サミット」開催
・中部エリアで、レギュラーコーヒー残渣のリサイクル(肥料化)開始		・「京都議定書」第一約束期間開始
・カップ式自動販売機「APEX 120QREC」発表		・洞爺湖サミット開催
・カップ式自動販売機「APEX 50RB」発表		・「生物多様性基本法」施行
・使用済みフラビア®パックの固形燃料化を開始	2009年	・「改正家電リサイクル法」施行
・ISO14001認証取得から10年が経ち、「10年継続賞」受賞		・コペンハーゲン会議(COP15)開催
・株式会社アベックス西日本設立		
・カップ式自動販売機「APEX 100QRC」発表	2010年	・「改正省エネ法」施行
・コカ・コーラウエスト株式会社と資本・業務提携契約締結		・「改正温対法」施行
・関東エリアで、レギュラーコーヒー残渣のリサイクル(炭化)開始		・「国連地球生きもの会議(COP10)開催
・レギュラーコーヒー「ブラジルブレンド」発売開始		(「名古屋議定書」「愛知ターゲット」採択)
		・カンクン会議(COP16)開催
・被災地の避難所にて「復興支援自販機」で被災地を支援	2011年	・東日本大震災
・フレンチレストラン「アビシウス」にてチャリティカレーの開催を開始		・ダーバン会議(COP17)開催
・宮城県多賀城市と「災害時における支援協力に関する協定書」を締結		・「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」施行
・大府本社、改装工事が完了		
・関東エリアで、レギュラーコーヒー残渣のリサイクル(肥料化)開始	2012年	・国連持続可能な開発会議(リオ+20)開催
・倉敷営業所にて電気自動車「MINICAB-MIEV」導入		・生物多様性条約第11回締約国会議(COP11)開催(ハイデルバート)
		・ドーハ会議(COP18)開催
・株式会社アベックス、創立50周年を迎える	2013年	・「京都議定書」第二約束期間開始(日本は不参加)
・カップ式自動販売機「APEX 85QVR」発表 <small>※魔法瓶構造タンク搭載、CO2冷媒使用</small>		・「小型家電リサイクル法」施行
・間伐材紙カップの使用開始		・国連気候変動ワルシャワ会議(COP19)開催
・フレンチレストラン「アビシウス」、開業30周年を迎える		・水銀に関する水俣条約が採択される
・株式会社名古屋フーツ、創立25周年を迎える		
・「サステナビリティレポート」発行開始		
・「平成25年度間伐・間伐材利用コンクール(製品づくり部門)」において、「間伐推進中央協議会会長賞」を受賞		
・関東エリアで、レギュラーコーヒー残渣のリサイクル(熱回収)開始		
・レギュラーコーヒー「ブラジル」発売開始		
・気候変動キャンペーン「Fun to Share」に参加	2014年	・「改正省エネ法」施行
		・「気候変動サミット2014」開催(米ニューヨーク)
		・生物多様性条約第12回締約国会議(COP12)開催(ピョンチャン)
		・国連気候変動リマ会議(COP20)開催
・北海道のバイオマスエネルギー活用プロジェクトに寄付、年間10t-CO2の排出削減事業を支援	2015年	・「フロン排出抑制法(改正フロン回収・破壊法)」施行
・スペシャルティコーヒー(「The ORIGIN of Apex」シリーズ)の展開を開始		・水銀法成立
・「ウッドデザイン賞2015」において、「ウッドデザイン賞」を受賞		・「第7回太平洋・島サミット(PALM7)」が開催(福島県いわき市)
・カップ式自動販売機「APEX 100RS」発表		・ラムサール条約締約国会議開催(ウルグアイ)
		・「JISQ14001:2015」発行
		・国連気候変動パリ会議(COP21)開催(「パリ協定」採択)
	2016年	・電力小売り完全自由化
		・熊本地震
		・パリ協定の署名が始まる

アベックスグループ
**Sustainability
 Report
 2016**

サステイナビリティレポート2016



お問い合わせ



アベックスグループは、環境
 マネジメントシステムの国際
 規格ISO14001:2004を
 認証取得し、環境保全活動に
 積極的に取り組んでいます。

<http://www.apex-co.co.jp>



国産間伐材10%以上配合紙

森林循環紙



水はみどりを守る水無印刷
 K0301090



植物油インキを使用しています。